

日本概況

日本とはこういう国だ



◆ 江新兴 周 洁 伍国春 编著


 旅游教育出版社

日本概况

日本とはこういう国だ



责任编辑：李 静

封面设计：

ISBN 7-5637-1334-4

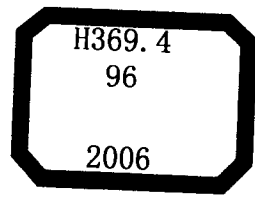


9 787563 713349 >

2006

ISBN 7-5637-1334-4/K·160

定价：25.00 元



日本概况

日本とはこういう国だ

◆ 江新兴 周 洁 伍国春 编著

旅游教育出版社

·北京·

责任编辑:李 静

图书在版编目(CIP)数据

日本概况/江新兴,周洁,伍国春编著. -北京:旅游教育出版社,2005.12
ISBN 7-5637-1334-4

I.日… II.江… III.日本—概况—日文 IV.K913.3

中国版本图书馆CIP数据核字(2005)第136042号

日本概况

江新兴 周洁 伍国春 编著

出版单位	旅游教育出版社
地 址	北京市朝阳区定福庄南里1号
邮 编	100024
发行电话	(010)65778403 65728372 65767462(传真)
本社网址	www.tepcb.com
E-mail	tepx@163.com
排版单位	北京幕友计算机技术开发中心
印刷单位	北京科普瑞印刷有限责任公司
装订单位	北京科普瑞印刷有限责任公司
经销单位	新华书店
开 本	787×1092 1/16
印 张	15.25
字 数	261千字
版 次	2006年1月第1版
印 次	2006年1月第1次印刷
印 数	1-4 000册
定 价	25.00元

(图书如有装订差错请与发行部联系)

前 言

一般来说,对于非母语的学习者来说,对象国文化、社会等方面的知识对语言的学习、掌握及对语言内涵的把握具有重大的意义。

为了使学生更好地学习语言,较全面、系统地掌握日本的地理、政治、经济、社会、文化、教育、外交等方面的知识,我们在总结多年教学经验的基础上,组织编写了《日本概况》。

本书的编写原则是:既要给学员学习日语语言文学提供文化背景知识,增进他们对日语语言文学的理解,也为学员开阔视野、扩大知识面提供必要的材料,还系统地介绍日本历史和现代日本社会的实际情况、使学生对日本社会的整体面貌有一个动态的、感性认识,缩短与日本人接触时的距离感。

《日本概况》自1997年9月起就以讲义的形式在北京第二外国语学院日语专业本科生授课中试用,到现在已经有8年的历史了。8年来曾对该讲义进行了多次修改,其间,2001年9月在讲义的基础上,出版了内部教材《日本概况》,并先后于2003年、2004年重新修订印刷。在学校内部使用的几年中,编者结合教学实践,借鉴国内同类院校以及国外优秀教材的长处,并根据学生们的反馈建议,不断进行补充完善,使这本教材适当反映时代气息。

为了使更多的对日本风土、社会和文化感兴趣的读者读到这本教材,编者在北京第二外国语学院日语系领导的支持和鼓励下,在以往多次修订的基础上,再次充实了内容,并交由旅游教育出版社出版。

《日本概况》由以下八章构成:第一章:日本地理;第二章:日本政治;第三章:日本经济;第四章:日本的文化;第五章:日本社会;第六章:日本的教育·科学·媒体;第七章:日本的外交与军事;第八章:日本的旅游。为了方便读者对关键资料的查找,以附录的形式附有部分资料。

本书的编写分工:江新兴承担第一、二、四章;第七章第五节;第八章第一、二节的编写任务。周洁承担第五、六章及第八章第三节的编写任务。伍国春承担第三章及第七章第一、二、三、四节的编写任务。全书资料由江新兴、周洁提供和整理,由江新兴统稿。

在本书的编写过程中,还得到许多专家学者的指导和帮助。特别是神户女学院大学理事秋山ひさ教授、北京第二外国语学院日本文教专家渡边芙裕美女士对本书提出了许多宝贵意见,在此一并表示感谢。

“他山之石,可以为错”。中日两国虽然社会制度不同,但在发展过程中还是有着相似之处。我们应该可以借鉴日本的经验教训,而促进我国的社会、经济发展进程。本书涉及广泛、资料翔实,不仅可以作为教材供日语专业学生使用,对想了解现代日本情况的读者来说,也不失为不错的读物。

教材的编写和出版是一个不断完善的过程,对教材使用中的问题,希望广大读者积极反馈,以便不断充实完善。

编者

目次

第一章 日本の地理	1
第一節 位置と構成	1
第二節 地方と行政区画	2
第三節 地形	4
第四節 気候	9
第五節 交通	12
第六節 人口と民族と宗教	15
第二章 日本の政治	19
第一節 戦後の日本政治	19
第二節 日本国憲法	22
第三節 日本の国家機構	27
第四節 選挙	30
第五節 政党・利益グループ	32
第三章 日本の経済	41
第一節 経済復興期（1945年～1955年）	41
第二節 高度成長期（1956年～1972年）	46
第三節 安定成長期（1973年～1989年）	53
第四節 ポスト冷戦（1989年～）	57
第五節 戦後日本経済成長の要因	62
第四章 日本の文化	66
第一節 日本文化史の特徴	66
第二節 伝統文化	68
第三節 民俗文化	84
第四節 神社・祭りおよび宗教観	89
第五章 日本の社会	105
第一節 日本人の暮らし	105
第二節 日本の家族	113
第三節 日本の社会	123
第六章 教育・科学・マスコミ	132
第一節 日本の教育	132
第二節 日本の科学技術	140
第三節 日本のマス・コミュニケーション	143

第七章 日本外交と軍事	147
第一節 第二次世界大戦前の日本外交	147
第二節 国際社会への復帰	150
第三節 戦後の外交	153
第四節 日本外交の特徴	170
第五節 日本の防衛	176
第八章 日本の観光	184
第一節 道路交通の発展と観光の始まり	184
第二節 観光政策と観光の発展	185
第三節 主な名所旧跡	189
付録一：日本国との平和条約	198
付録二：日本国憲法	209
付録三：日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明（日中共同声明）	223
付録四：天皇の人間宣言	225
付録五：日本史略年表	226
参考文献一覧	235

第一章 日本の地理

第一節 位置と構成

一、位置

日本列島はユーラシア大陸の東にあり、弓形にならび、アジア大陸との間には日本海や東中国海があり、また、東には広大な太平洋が広がっている。日本列島の周りにはたくさんの国や地域があり、西は日本海と東中国海を隔てて韓国、中国と向かい合い、東は太平洋を隔ててアメリカ大陸がある。北にはオホーツク海を隔ててロシアの東シベリアがあり、南には太平洋を挟んでフィリピンやインドネシアなどの国々がある。

そのため、日本列島は古来、大陸の文化などを取り入れる地理的メリットを持っていただけでなく、その周辺にはいくつかの海峡があつて戦略的にみてもきわめて重要な位置にあつた。北海道とロシア極東のサハリン島の間にある宗谷海峡はオホーツク海から日本海に入る要道であり、北海道と本州島に挟まれている津軽海峡は日本海から太平洋への重要な通路である。極東ロシアにあるウラジオストクから日本海を経て太平洋に入る近道でもある。北九州と韓国の釜山の間にある対馬海峡は日本海から黄海、東中国海に入る海上の重要な通路である。また、地理的位置からみると、日本の周辺には中国や朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)、旧ソビエトなどの社会主義国家があり、冷戦時代から西側陣営、特にアメリカにとって、日本は社会主義陣営に対抗する重要な障地でありつづけてきた。日本は軍事同盟関係にある米国にとって地理的に重要であり、米軍がアジア・太平洋地域における最大の軍事基地のひとつである。

中国と日本は「一衣帯水」の隣国であり、上海から九州の長崎まで約 460 海里、台湾省から日本の南西諸島の南端までは、60 海里ほどしか離れていない。

二、構成

日本列島は主として北海道、本州、四国、九州の四つの大きい島と、その周辺にある数多くの小さい島々からなり、南北約 3 000 キロメートルにわたって弧状を呈している。これらは日本列島と総称されている。四つの大きい島の中では本州がもっとも大きく、四国が一番小さい。国土の総面積は 37 万 7 千平方キロメートルで、中国やアメリカの約 25 分の 1 にあたる。

北海道の北には北方四島と呼ばれるはぽまい歯舞島、しこたん色丹島、くなしり国後島、えとろふ択捉島の四島が

あり、第2次世界大戦後、旧ソビエト（現ロシア）に占領されており、日本とロシアの間でその領有権をめぐる交渉が今でも続いている。

中国と日本の間では釣魚島（日本名は尖閣諸島）の領有権を、また、日本と韓国の間では竹島（韓国名は独島）の領有権をめぐる争っている。

第二節 地方と行政区画

一、地方の区分

日本の国土は、北から北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の八つの地方に分けられる。最近では中国地方と四国地方をひとつにまとめて、中国・四国地方とし、七つの地方に分ける場合が多い。これらの地方区分は地形などの自然的特徴と地域の産業や歴史的な変遷を基礎にしたもので、行政上の地方区分ではない。

二、行政区画

行政上では、東京都、北海道、大阪府、京都府、青森県、秋田県……など1都、1道、2府、43県に分けられている。首都は東京都である。

日本の都、道、府、県は、中国の省や直轄市にあたり、都道府県にはそれぞれ都庁、道庁、府庁、県庁がもうけられ、その下に市、町、村などの順で行政機構が設けられている。

47の行政区域の中で、面積がもっとも広いのは北海道で、東京都の37倍もある。一方、面積が最も狭いのは大阪府で、北海道の45分の1しかない。

三、よく使われる地理概念

【東日本と西日本】日本列島は東西に細長く、歴史的な要素を含め、とりわけ、文化や地理及び社会慣習などの違いから、大きく二つの部分に分けることができる。中部地方の中間を境に、東が東日本、西が西日本である。

【関東】関所の東という意味である。箱根の関より東にあることを表し、関東地方のことである。また、広く東京周辺の地方をさすこともある。

【関西】関東に対する呼び方で、関所の西の地域をさす。特に京都、大阪を中心とする地域をさす。

【甲信越】甲は甲州（山梨県）、信は信州（長野県）の別称であり、越は越前（福井県）、越中（富山県）、または越後（新潟県）の略称である。

【北陸】北陸地方の略。中部地方のうち、日本海に面する地域で、福井、石川、富山、新潟の4県をいう。狭義には新潟県を除く3県をいう。

表 1-1

都、道、府、県一覧表

	北海道 (ほっかいどう)		滋賀県 (しがけん)
東 北 地 方	青森県 (あおもりけん)	近 畿 地 方	三重県 (みえけん)
	秋田県 (あきたけん)		奈良県 (ならけん)
	岩手県 (いわてけん)		京都府 (きょうとふ)
	山形県 (やまがたけん)		大阪府 (おおさかふ)
	宮城県 (みやぎけん)		和歌山県 (わかやまけん)
	福島県 (ふくしまけん)		兵庫県 (ひょうごけん)
関 東 地 方	栃木県 (とちぎけん)	中 国 地 方	鳥取県 (とっとりけん)
	群馬県 (ぐんまけん)		岡山県 (おかやまけん)
	茨城県 (いばらぎけん)		島根県 (しまねけん)
	埼玉県 (さいたまけん)		広島県 (ひろしまけん)
	千葉県 (ちばけん)		山口県 (やまぐちけん)
	神奈川県 (かながわけん)		四 国 地 方
東京都 (とうきょうと)	愛媛県 (えひめけん)		
中 部 地 方	新潟県 (にいがたけん)	四 国 地 方	徳島県 (とくしまけん)
	長野県 (ながのけん)		高知県 (こうちけん)
	富山県 (とやまけん)		九 州 地 方
	石川県 (いしかわけん)	佐賀県 (さがけん)	
	福井県 (ふくいけん)	長崎県 (ながさきけん)	
	山梨県 (やまなしけん)	大分県 (おおいたけん)	
	静岡県 (しずおかけん)	熊本県 (くまもとけん)	
	岐阜県 (ぎふけん)	宮崎県 (みやざきけん)	
	愛知県 (あいちけん)	鹿児島県 (かごしまけん)	
		沖縄県 (おきなわけん)	

【東海】東海地方の略。本州中央部の太平洋側の地方、一般に静岡、愛知、三重の3県と岐阜県南部を含む。

【山陽】山の南側の意。山陽地方とも言う。中国山地南側の地域。岡山、広島両県と山口県の大部分を含む。瀬戸内海に面している。

【山陰】山の北側を、山陽地方に対して山陰地方という。中国山地の北側、日本海に面する一帯を指し、鳥取・島根両県を含む。広くは山口、兵庫、京都の日本海側を含む。

第三節 地形

日本列島は活発な環太平洋造山帯にあるため、日本の地形は山地と火山が多いことが特徴である。高くて険しい山が多く、火山活動が活発で、断層も多く、地質構造が複雑である。

また、今から数十万年前は、日本列島はアジア大陸の一部であったといわれている。その後、火山活動などの地形変動が激しくなり、大陸から離れ、周囲は海に囲まれるようになった。その根拠として日本と朝鮮半島の間にある日本海は深さ 200 メートル以下の浅い海であり、大陸と浅い大陸棚で接していることがあげられる。一方、太平洋側には深さ 6 000 メートルから 10 000 メートルもある日本海溝がある。

一、山地と山脈

日本は山が多い国であり、国土の 3 分の 2 近くは山地である。山地（山脈、なだらかな山地、丘陵地、高原を含む）は日本国土面積の約 75% を占めており、しかも、傾斜が急で海までせまっているため、大きな平野はない。

山地は東北日本では 3 列に、西南日本では 2 列にならび、日本列島の中央を背骨のようにつらなって、国土を太平洋側と日本海側とに二分している。東北日本と西南日本の山地が出会う本州の中央部では、東北日本をつらぬいてきた 3 列の山地が「ウォッサマグナ」によって断ち切られ、その結果、飛騨^{ひだ}、木曾^{きそ}、赤石の 3 山脈ができ、日本アルプスと呼ばれる高山地帯を形成している。この日本アルプスには 3 000 メートルを越える険しい山々がそびえており、日本の高い山はここに集中している。

西南日本を走っている 2 列の山脈の間には「中央構造線」と呼ばれる断層があり、これによって、西南日本は内帯（日本海側）と外帯（太平洋側）に分けられている。内帯を走る山脈は多くがなだらかなのであるが、外帯を走る山脈は高くて険しい。このように、日本には、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈のように高くて険しい山脈もあれば、北上^{きたかみ}山地、阿武隈^{あぶくま}山地、中国山地のように、なだらかな高原状の山地もある。

富士山は雪をいただく美しい山で、海拔 3 776 メートルあり、日本一高い山である。

表 1-2

日本の高い山（高さ 3 000 メートル以上）

山の名	所在地	高さ (m)
富士山 (ふじさん)	山梨・静岡	3 776
穂高岳 (ほだかだけ)	長野・岐阜	3 190
槍ヶ岳 (やりがだけ)	3 180
悪沢岳 (わるさわだけ)	静岡	3 146
赤石岳 (あかいしだけ)	長野・静岡	3 120
御岳山 (おんだけさん)	長野・岐阜	3 067
塩見岳 (しおみだけ)	長野・静岡	3 047
仙丈ヶ岳 (せんじょうがだけ)	長野・山梨	3 033
乗鞍岳 (のりくらだけ)	長野・岐阜	3 026
立山 (たてやま)	富山	3 015
聖岳 (ひじりだけ)	長野・静岡	3 013

日本列島には、富士山をはじめ火山が多い。

日本列島は環太平洋地震帯の上であり、火山活動も活発で、世界でも有数の地震多発地帯となっている。日本列島は七つの火山帯によってほとんど覆われている。七つの火山帯とは、千島^{ちしま}、那須^{ちようかい}、鳥海^{とりくら}、富士^{ふじさん}、乗鞍^{のりくら}、白山^{はくさん}、霧島である。火山の中には、阿蘇山^{あそ}、三原山^{みはら}、浅間山^{あさま}、桜島、雲仙岳など約 60 の活火山がある。

火山活動によってできた湖や温泉もたくさんあり、保養地や観光地として利用されている。

二、川と湖と平野

日本は細長い島国で、国土の中央をせぼねのように山脈が走っているので、川の多くは中央の山脈をさかいにして、太平洋と日本海とに流れている。そのため、川は短く急流であることが多い。日本一長い信濃川も、その長さは 367 km に過ぎず、世界で 3 番目長い中国の揚子江 (6 300 km) などの有名な川と比べるととても短い。

このように、日本の川は短く、流れが急で、水量の変化が激しいので、交通にはほとんど利用できない。しかし、水力発電や灌漑、工業用水、上水にはよく利用されている。現在、川の上流にダムを造って、水の流れを調節し、川の水を有効に利用している。

日本の湖沼は山間にあり、火山の爆発によって形成されたものが多い。湖沼は近畿の東に多く、西には少ない。規模は小さく、もっとも大きい琵琶湖は地盤運動によって断層が生れ、それが落ち込んでできたものである。

るところが多い。しかし、津波の際に被害を受けやすいという短所もある。

表 1-3 日本のおもな湖とその面積

河川名	流域面積 (km ²)	長さ (km)
利根川 (とねがわ)	16 840	298
石狩川 (いしかりがわ)	14 300	262
信濃川 (しなのがわ)	12 050	367
北上川 (きたかみがわ)	10 200	247
木曾川 (きそがわ)	9 100	193
十勝川 (とかがわ)	8 400	178
淀川 (よどがわ)	8 240	75
阿賀野川 (あがのがわ)	7 340	210
最上川 (もがみがわ)	7 040	232
天塩川 (てしおがわ)	5 590	311
阿武隈川 (あぶくまがわ)	5 400	225
天竜川 (てんりゅうがわ)	5 090	250

表 1-4 日本のおもな湖とその面積

湖の名	所在地	面積 (km ²)
琵琶湖 (びわこ)	滋賀県 (しがけん)	6 945
霞ヶ浦 (かすみがうら)	茨城県 (いばらぎけん)	1 778
サロマ湖	北海道 (ほっかいどう)	1 517
猪苗代湖 (いなわしろこ)	福島県 (ふくしまけん)	1 040
中海 (なかうみ)	鳥取県・島根県 (とっとりけん・しまねけん)	1 017

表 1-5 日本海岸線の変化状況 (%)

調査年度	自然海岸	半自然海岸	人工海岸	河口部	合計
1978年 (第2回調査)	58.95	13.49	26.81	0.75	100
1984年 (第3回調査)	56.67	13.89	28.62	0.82	100
1993年 (第4回調査)	55.23	13.62	30.32	0.83	100
1996年 (第5回調査)	52.66	13.06	33.39	0.89	100

出所:「環境統計集」 2004年版より作成

日本海岸は太平洋沿岸に比べると出入りが少なく、鳥取、新潟、秋田付近などは、砂丘の多い砂浜海岸になっている。

瀬戸内海や有明海のような内海や河口の三角州などでは、古くから干拓による新田の開発が行われてきた。また、水深の深い湾の奥の入り江は港として利用されてきた。しかし、最近では、浅い海の埋め立てや砂浜海岸の掘り込みによる港の建設が、工場用地の造成とともに進められ、沿岸道路の建設や護岸工事も盛んに行われている。そのため、今では人工的な海岸が多くなっている。1996年の調査によると、東京湾、大阪湾、伊勢湾などの全国でも有名な湾の海岸線が急速に人工海岸へと変えられ、自然海岸や半自然海岸が減り、日本の海岸線の33.39%は人工海岸になっている。

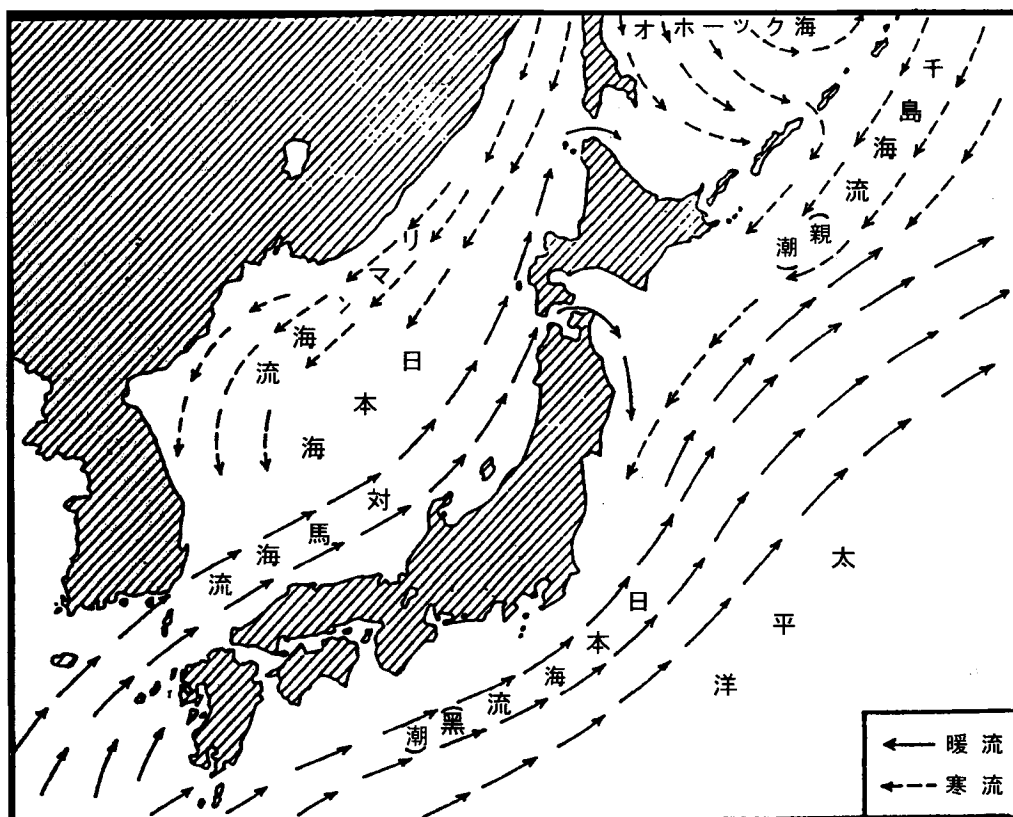


図 1-2 日本周囲の海流図

日本列島とアジア大陸の間には、オホーツク海、日本海、黄海、東中国海があるが、これらの海は、概して水深が浅く、東中国海の大部分は大陸棚（水深 200m 以内の浅海）である。

日本の近海には、太平洋側を南から北へ日本海流（黒潮）と呼ばれる暖流が流れ、北から南へは千島海流（親潮）とよばれる寒流が流れている。この両海流は、

夏は金華山沖、冬は鮫子沖で出会う。この両海流がひとつになる水域は豊漁区である。

また、日本海には、暖流の対馬海流と寒流のリマン海流が流れている。

第四節 気候

一、日本の気候の特徴

日本の国土の大半は温帯気候に属している。気候の特徴として四つ挙げられる。第一の特徴は四季の変化がはっきりしていることである。夏は熱帯なみに暑く、湿度も高く、夜になっても 25℃を下らない熱帯夜が続くこともある。冬は寒くなるため、夏と冬との間に衣替えがおこなわれる。夏の気温は熱帯地方の気温とあまり変わらず、しかも湿度が高いため、大変蒸し暑く、人々に不快感を与えることが多い。これに対して、冬には厳しい寒さにみまわれる地方が多い。

第二の特徴は海に囲まれていて、国土が南北に長く、地形も複雑なため、さまざまな気候が見られることである。

第三の特徴は国土が南北に長い島国で、緯度の差が 20 度以上もあるため、北と南の気温の差が大きいことである。春は南から訪れる。北海道にはまだ寒さが残っているころ、九州方面から桜が咲きはじめ、次第に北上していくのである。秋は北のほうから訪れる。西日本が暑さにうだっている 8 月の中ごろ、北海道では萩のような秋の草が咲きはじめる。

第四の特徴は大陸と海洋の間に吹く季節風の影響が強いことである。

二、さまざまな気候

日本列島は、大部分が温帯に属し、アジア大陸と太平洋の間に位置するため、季節風の影響を受ける。季節によって、特に冬と夏とで吹く方向が変わる風を季節風という。冬には、大陸から吹いてくる北西の季節風が、日本海をわたる間に湿気をふくみ、日本海側に雪を降らせる。この風は山をこえると水分を失い、太平洋側では、晴天の日が続く。夏には、太平洋から大陸へ暖かく湿った南よりの季節風が吹き、大変蒸し暑い日が続く。これらの気候はそれぞれ、日本海側の気候、太平洋側の気候と呼ばれている。中央高原の盆地は季節風の影響が少ない。内陸性の気候で、雨が少なく、夏は暑く、冬は寒い。夏と冬とで気温の差が大きい。中国山地と四国山地で夏と冬の季節風がさえぎられるため、瀬戸内海沿岸の気候は雨が少なく、一年中晴天の日が続く。九州の気候は冬は北西季節風をうけ、曇りの日が多くて寒い。また、梅雨による降水量が多く、夏は暑い。北海道気候は冬は長く、寒さが厳しい。しかも積雪が多い。梅雨や台風の影響は少ない。小笠原諸島や南西諸島は一年を通じて気温が高く、雨が多い亜熱帯の気候で、梅雨や

台風の影響が非常に大きい。

三、気候と伝統的な家屋

冬の北西季節風は日本海の湿気を含んで、日本海側に多くの雪を降らせる。特に、北陸地方や東北地方の山ろく地帯では、雪が屋根の高さほどまで積もることがあり、この地方の生活や産業、交通に大きな影響を与えている。

山脈をこえた北西の季節風はかわいた風となって、太平洋側へ吹き降ろす。この風を関東地方では「からっ風」とよび、冷たく強い風は関東平野のかわいた土をまきあげる。

日本各地に見られる伝統的な家屋は、このような気候と、風土、農業などによって、独特のスタイルを持っており、土間と高床のあることが共通している。

土間は寒い地方で発達した住居形式で、冬を暖かく過ごすための工夫である。また、土間は玄関であるとともに、夜間や冬に作業するための場所でもある。高床は南の暖かい地方で発達した住居の形式で、高温多湿な気候条件に合わせて、床下の風通しをよくし、涼しく過ごすための工夫である。

また、日本の家屋には南側に縁側をもち、部屋の仕切りは障子やふすまで開けっ放しにできるものが多い。これは夏の蒸し暑さを和らげるのに都合がよい。北の窓は小さく、数も少ないが、これは北西の季節風を避けるためである。

岩手県地方に見られる家屋の形式は曲屋^{まがりや}で、母屋^{おもや}の下手に馬屋を付け足したものである。人と馬がひとつの家に住み、冬の寒さから馬を守るために工夫されたものである。

岐阜県白川村の合掌造りの民家は5階建てにもなることがある。下から1階は生活の場、2階以上は物の貯蔵、寢室、蚕室として使われる。

四、梅雨と台風

日本は世界でも降水量の多い地域である。降水は、冬の雪によるものと、夏から秋にかけての梅雨や台風によるものである。

梅雨は、5月の中ごろにまず沖縄に始まり、しだいに北上するが、北海道を除く地域では7月中旬まで高温・多湿の雨期がある。梅雨があけると、太陽の照り輝く真夏となる。梅雨の終わりごろには大雨の降ることがよくあり、西南日本では集中豪雨の被害を受けることが多い。梅雨の始まりは「梅雨入り・入梅」、終わりは「梅雨明け」と言う。雨を降らせる高気圧を「梅雨前線」と呼ぶ。

台風は7月から10月にかけて特に8月、9月に日本に多く上陸する。台風は強い風とともに大量の雨をもたらす、西南日本を始め、日本の各地で、風水害を引き起こす。ことに沖縄地方は台風銀座とも呼ばれるほど、台風におそわれる回数が多い。北海道地方や東北地方は台風の接近が少ない。